

## 今だからこそ再確認してみませんか？ 資産分散投資

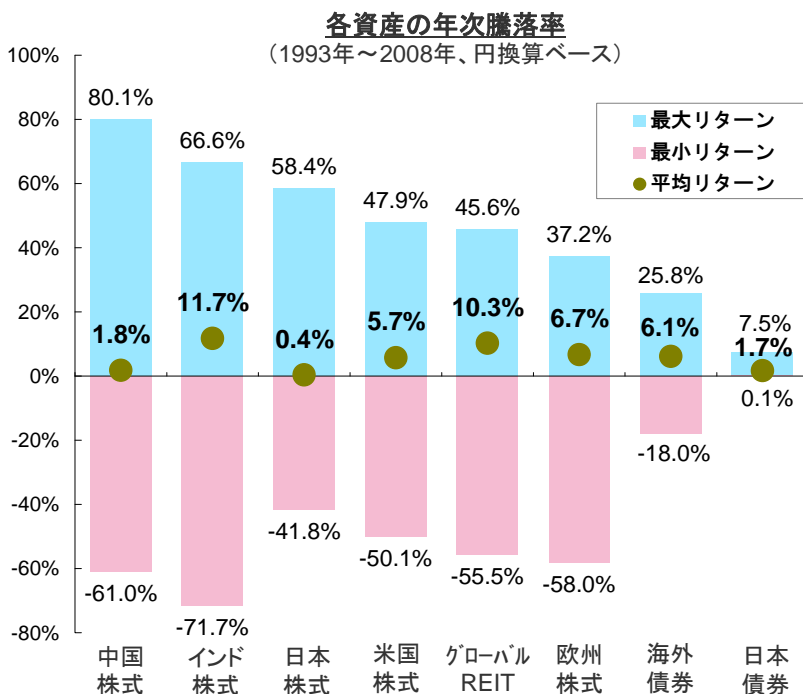
日興AMニュースレター

nikko am  
fund academy

2008年に深刻化した世界的な景気後退によって、世界の資産は大きなダメージを受けました。  
今こそ、改めて資産配分を見直してみませんか？

### ■ 値上がり期待の大きい資産ほどリスク度合いも大きく

株式や債券を活用した資産運用。最近では、新興国地域やREIT(不動産投資信託)など投資対象も多様化してきました。収益性では魅力あるこれらの資産ですが、収益期待が大きくなるほど価格が変動する可能性も大きくなる傾向が見られます。そして2008年、サブプライムローン問題に端を発した世界的な金融不安や景気悪化などにより、ほとんどの資産が大きなマイナスリターンとなりました。



株式は、  
債券に比べて瞬発力があり、  
高い収益性が期待できる一方、  
下落時のマイナスも  
大きくなる傾向に

●信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。使用インデックスについては、最終頁をご確認ください。

#### 大きなマイナスになれば、代償も大きい

収益期待の高さに惹かれ、価格変動(リスク)の大きい資産に集中投資した場合、大きな損失が生じる可能性も高くなります。

そして、一度大きなマイナスが出ると、それを取り戻すには、より大きな力が必要となります。

(例)100万円を投資して20%の損失が生じた場合、▲20万円を帳消しするには、残った80万円に対して25%の上昇が必要

損失	▲10%	▲20%	▲30%
損失を補うために必要な収益力	+11%	+25%	+43%

上記グラフおよびデータは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが資産分散投資についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。

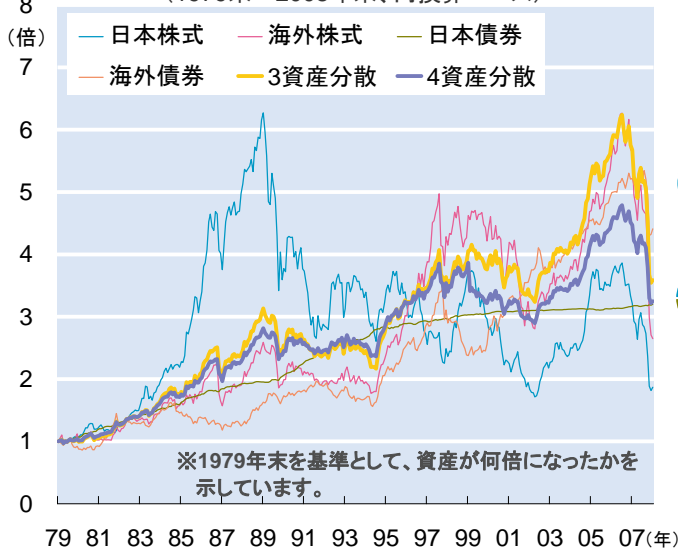
■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ■リスク軽減は、安定的な収益追求への第一歩

株式だけの投資や債券だけの投資では、収益が期待できる一方で価格変動も大きくなる可能性があります。また、マイナス幅を抑えるだけなら、リスクの小さい資産を選ぶという方法がありますが、同時に収益性も小さくなってしまいます。リスクを抑えながら安定的な収益を確保し、中長期的に資産を増やすためには、こうした値動きの異なる資産を組み合わせる資産分散投資が有効な手段といえるでしょう。

### 各資産と資産分散投資のパフォーマンス

(1979年末～2008年末、円換算ベース)



値動きの異なる資産に分散投資を行ない、収益性を維持しながらリスクの軽減を狙う



#### 3資産分散

(日本株式+海外株式+海外債券)

平均:5.5% 最大:27.2% 最小:▲36.7%



#### 4資産分散

(日本株式+海外株式+日本債券+海外債券)

平均:5.1% 最大:20.7% 最小:▲27.3%

※上記は年次リターンです。

3資産分散:日本株式、海外株式、海外債券に均等投資し、年次リバランス

4資産分散:日本株式、海外株式、日本債券、海外債券に均等投資し、年次リバランス

●信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。使用インデックスについては、最終頁をご確認ください。

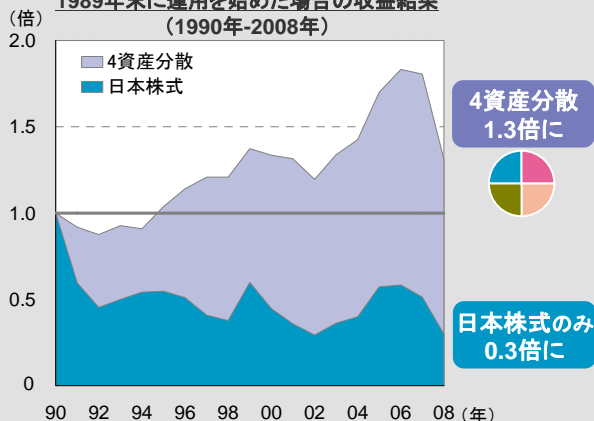
### 【たとえば、バブル期のピークに投資を始めていたら・・・】

日本株式の最高値は1989年末—

そして、2008年には最も大きなマイナスとなりました(年間騰落率ベース)。しかし、日本株式も含めた4資産へ分散投資を行なうと、日本株式の損失を他が補い、資産規模は1.3倍になっていたこととなります。

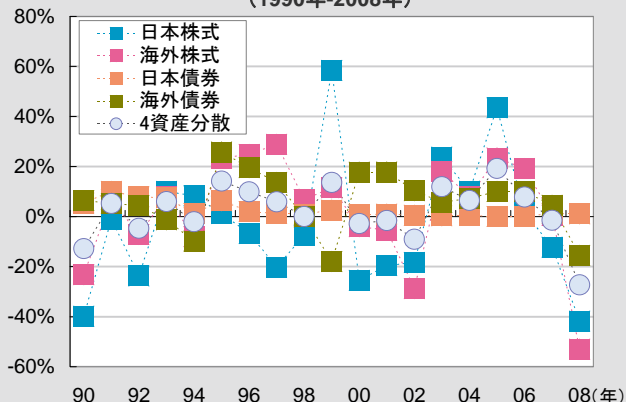
資産分散の効果により、個別資産での損失をカバー

1989年末に運用を始めた場合の収益結果  
(1990年-2008年)



日本株式に限らず、どの資産にも大きな価格変動が起こる可能性があります。

各資産の年間騰落率  
(1990年-2008年)



●各資産および4資産分散については、上記と同じものを使用。信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。

上記グラフおよびデータは過去のものおよびシミュレーションの結果であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

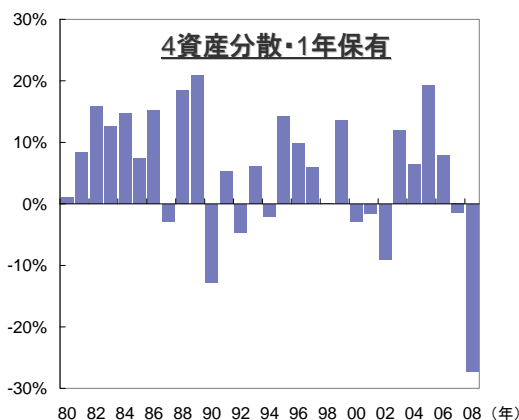
日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが資産分散投資についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。

■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

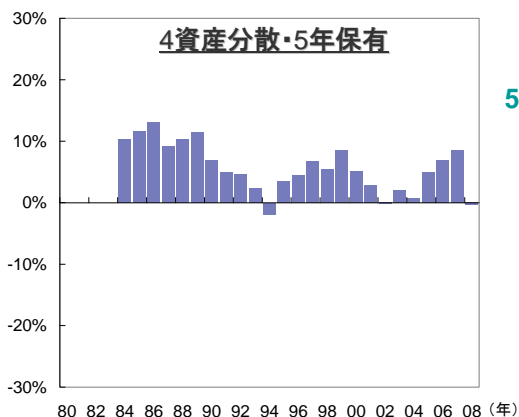
## ■千里の道も一歩から。今も昔も時間を味方につける効果は大きい。

ただし、変動ある資産を組み合わせている以上、資産分散投資も決して万能という訳ではありません。“100年に一度”とも言われた世界的な金融危機に見舞われた2008年の場合、主要資産がいずれも大きく下落したため、資産分散投資をしても大きなマイナスとなりました。分散投資でのリスク軽減効果を高めるために必要なのは、時間を味方につけること。長く保有することで、資産全体の変動幅はさらに穏やかになる効果が期待されます。資産分散+長期投資で、より安定的な資産形成をめざしましょう。



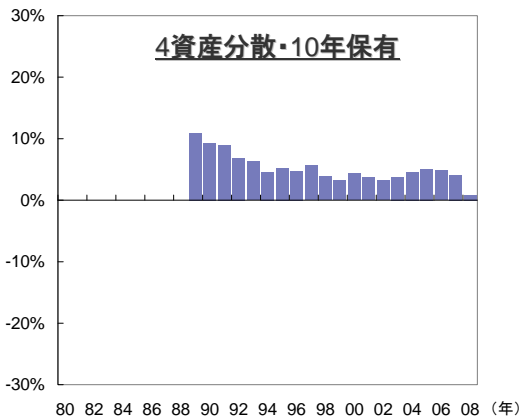
資産分散投資でも  
1年保有では、投資時期による変動が大きい

【4資産分散・1年保有】  
平均収益率:5.1%  
(最大:20.7% 最小:▲27.3%)



5年保有することで、上下の変動幅が大きく軽減され、  
1年保有と比べて穏やかな動きに

【4資産分散・5年保有】  
平均収益率:5.6%  
(最大:13.0% 最小:▲1.8%)



10年保有では、2008年の大きな下落を受けても  
すべての期間でプラスに

【4資産分散・10年保有】  
平均収益率:5.1%  
(最大:10.9% 最小:0.8%)

前頁の4資産分散を行ないながら、1980年～2008年において、  
1年・5年・10年保有した場合の年間騰落率。

●信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。

【当資料の使用インデックス】日本株式:東証株価指数(TOPIX)、海外株式:MSCIワールドインデックス(日興アセットマネジメントが円換算)、海外債券:シティグループ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)、日本債券:日興債券パフォーマンスインデックス(短期総合)、グローバルREIT:S&P先進国REIT指数(配当込み、円ベース)、中国、インド、欧州の株式はMSCI Inc.の各国指数、米国株式はS&P500。いずれもドルベースのものを日興アセットマネジメントが円換算。

上記グラフおよびデータは過去のものおよびシミュレーションの結果であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが資産分散投資についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。

■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。